



人をつなぎ 未来をつなぐ  
明石のコミュニティ・スクール

# コミコミスクスク

明石市教育委員会事務局学校教育課

## 地域で子どもを育てるいろいろな仕組みを

6月に入り、学校運営協議会がスタートする学校が増えてきました。これから熟議の中で、各校区にあった取り組みが生まれくるのではと思っています。ある小学校区の学校運営協議会では、「先生が掃除で細かいところまで見るのは大変だろう、トイレ掃除を子どもたちと一緒にしてみてもは?」「地域の高齢者向けのふれあい給食を学校でできないかな?そこで子どもも一緒に食べられたら」など可能性が秘められた案がいろいろと出てきたそうです。今後の学校運営協議会で練られ、どんな仕組みが出来上がっていくのか楽しみです。

そんな仕組みの参考例の一つとして、以前紹介した松が丘小校区の「松っ子レベルアップ教室」があります。そのヒントになったのが、神戸市立本多聞小学校の地域ボランティアさんによる「放課後学習会」です。

“・・・低迷する学力に「学習よりも忘れ物防止を」と「家庭の力」を問う学校、「学校に通えば、なんとかしてもらえる」と考える保護者。双方の認識のずれは広がっていった。焦りから動いたのがPTA。市内の小学校に導入されているパソコン教材システムを活用し、教室での放課後学習を学校側に提案した。PTAは「先生の負担は最小限に」と地域のボランティアを募るチラシを作り、校区内の郵便受けへ。・・・「一緒に宿題をするだけなら」と控えめに集まった卒業生の母親や近くの高齢者6人が、1年半で15人に増えた。・・・” (2018/10/21 神戸新聞NEXTより 検索:神戸新聞 本多聞小学校)



(異学年一緒にレベルアップ教室)

放課後に少しでも学習できる場を確保できたらとは誰もが考えていることだと思います。忙しい放課後にビルド&ビルドでは実現は難しいと思い込んでいた時、この実践を耳にしました。また、わくわく地域未来塾をまちづくり協議会さんが実施されている校区もあることも知りました。すると「学校が全部抱え込まなくてええねん、コミュニティ・スクールでできるのでは」と考えるようになりました(学校運営協議会には事後承諾という形になってしまいましたが)。幸い卒業生を含め3名の学生ボランティアと退職された校長先生の協力もあり、3年生と6年生を対象

に毎週金曜日の放課後に「松っ子レベルアップ教室」をスタートすることができました。また3学期には赤ペンボランティアさんの応援もあり、5年生にも対象を広げることができました。今年度は、3・4・5・6年生、100名を超える子どもたちが教室にきています。まだまだボランティアの確保・教材の準備等教室運営には課題も多い取り組みですが、ワイワイにぎやかに楽しんでいます。保護者の皆さん、地域の皆さん、学校、そして子どもたちの手で創られる「レベルアップ教室」は、まだまだレベルアップできるのではと思っています。係ってくれる人が「みんな楽しい」と感じる取り組みが、地域で子どもを育てる仕組みとして機能していったらいいなと願っています。

そんなヒントとなった本多聞小学校の「放課後学習会」を仕掛けられた方が、前号で取り上げたY!ニュースの記事の方と知ってビックリ!早速「PTAのトリセツ」を読んでみると、コミュニティ・スクールづくりのヒントがいっぱいありました。当事者となって考える大切、そして、新しい仕組みを創っていくためには「変えていく勇気を持つ」ということを教えていただいたように思います。



## ボランティアさんの力があってこそ（夢を描き 夢をつなぐ）



（6年生の池づくり）

松が丘小校区がコミュニティ・スクールのモデル校として指定された年は、創立50周年を迎える年でもありました。1968年（昭和42年）1月に明石市立明舞小学校（仮称）として着工し、同年9月に造成中の明舞団地の中に、樹木が一本もなく鉄筋校舎が1棟だけポツンと建った明石市立松が丘小学校が28名の児童を迎えスタートしました。“緑いっぱい囲まれ、その中を元気に走り回る子どもたち”を夢見て、子どもたち・保護者の手で樹が植えられ歩み

始めた学校です。現在はいっぱいの緑に囲まれた学校で、そのシンボルが中庭にある「ふれあいの池」です。その池は、人工物に囲まれた自然のない明舞団地の中に、教科書に出てくる植物や生き物と出会う場所を創りたいという先生たちと学校に何か自分たちの手で卒業記念になるものを残したいという当時の6年生が一緒になって考え、自分たちの手で掘って造られた池です。そんな思いで造られた池も年月が経つにつれ管理状態が悪くなり、ヘドロが堆積し、アカミミガメ等外来種が放たれるなど悪臭を放つ池になってしまっていました。2010年松が丘小3年生とあかねが丘学園との自然観察会がきっかけとなり「自然を愛し、生き物を慈しみやさしい街づくりに貢献する」という活動方針のもと「いきものみまもり隊」が結成されビオトープ造りがすすめられました。それから10年、「いきものみまもり隊」の皆さんのおかげで黒メダカ、モツゴ、カワムツ、ヨシノボリ、ヤゴ、ミズカマキリ、マツモムシ、ミズムシ、ミナミヌマエビ、カワナナ、タニシといった生き物たちが棲み、春から夏にかけてはいろいろなトンボが、秋から春にかけてはいろいろな野鳥が遊びにきてくれるきれいな環境を保つことができ



（かいほり）



（生き物みまもり隊）

ています。そこでホタルに詳しい方に池の様子を見てもらったところ、「ホタルの幼虫を放したらホタルが飛ぶ可能性があるよ」と言っていただきました。



（羽化したのホタル）



（孵化したホタルの幼虫）

“子どもたちの手で掘られ思いのつまった池が、地域の人の手で新たな命が吹き込まれ、地域の人の手でいい環境が保たれ、子どもたちがその中で学んでいる”、学校の人が変わっても、この10年間地域の人によって再生され守られてきた「ふれあいの池」の活動はコミュニティ・スクールの一つの姿だと思いました。そこで次なる50年に向け緑いっぱい・笑顔いっぱいの松が丘をつないでいくためにスタートしたのが「ホタル舞うふるさと松が丘」を合言葉にした「ホタルプロジェクト」です。今年も皆様から寄せられた募金等をもとに3月中旬に放流されたホタル

の幼虫が無事に羽化し、5月の末には、ホタルの鑑賞会が開かれました。鑑賞にこられた地域の方から、「こんな近くでホタルがみられるなんて」「来年もみられるかな」などといった言葉がたくさん寄せられました。そんな言葉を励みに校長先生はホタルが産卵した卵から孵化した幼虫の飼育にチャレンジされています。試行錯誤しながら子どもたちの手に、また地域の方の手に飼育の輪が広がっていく仕組みができたらと夢を描いています。暑い夏を乗り越え、数匹でも放流までいけたらと願っています。

こんな夢を持つことも地域で子どもを育てる新しい仕組みづくりにつながっていくのではと思っています。夢を描き、夢をつないでいくのもコミュニティ・スクールなのではと思っています。



（手作り幼虫飼育セット）